

講義名	新興市場戦略論			授業形態	
担当教員	潘 志仁	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

#### 主題と概要

新興国が目覚ましい成長を上げている。日本企業をはじめとする欧米の多国籍企業が相次いで新興国へと進出を続けている。しかし、日米欧の多国籍企業がどのように新興国に参入しているか、実際どのように戦略を構築してきたかがあまり知らされていない。そこで、日本企業がどのように新興市場戦略を進めているかを明らかにするのが、本講義の狙いである。本講義はケーススタディを採用したい。「事業は小説より奇なり」というが、本講義を受講すれば、新興市場の理論を読んでもわからない参入戦略の実態を知ることができる。本講義は基本的に日本企業をケーススタディとして取り上げるが、途中、講義する順番が変わりうることもあるかもしれない。

#### 到達目標

- (1) 従来の国際化モデルの課題を認識し、新興市場の特殊性を把握することができる。
- (2) グローバル市場における重要な新興市場に適用する企業のそれぞれの製品革新戦略の特徴及び課題についても理解することができる。
- (3) 新興市場開拓の課題を理解することで、多様性に富んだ新興市場のダイナミズムに対し、自分の視点から捉える能力を身につけることができる。

#### 提出課題

なし

#### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中で小テストの解説を行います

#### 評価の基準

授業中で小テストを10回実施することにより、受講生の成績を評価します。

#### 履修にあたっての注意・助言他

特別の理由（公共交通機関など）はないが、授業開始30分後の入室を固く断ります。  
「遅刻する」、「授業中の出入りをする」、「私語をする」、「居眠りをする」と大入の態度と行動を遵守できない学生には、受講を強く遠慮願う。授業中で質問・発言する学生大歓迎する。

#### 教科書

・「使用しない」。					
-----------	--	--	--	--	--

#### 参考図書


#### その他

レジュメ配布

#### 授業計画

1. 経済成長が目覚ましい新興市場の重要性
2. 外国企業と日本企業の新興市場戦略の現状  
新興市場開拓における課題と新興国にむけた組織の再編成
3. イオンのマレーシア市場開拓  
ショッピングセンター開発による「創造的連続適応」
4. イオンの中国市場展開  
新店舗増設と成功店舗にみる立地戦略の重要性
5. ダイキン工業の新興市場戦略
6. セブン・レオの中国戦略  
顧客ニーズの差別化戦略と商品本部の機能
7. ホンダの二輪車事業のASEAN戦略（1）  
タイにおける販売と研究開発戦略
8. ホンダの二輪車事業のASEAN戦略（2）  
ベトナムにおける低価格モデルの投入とプラットフォーム戦略
9. 日立の自動車電のインド戦略  
ニーズを捉えた製品開発と機能を伝える販売
10. コマツのブラジル戦略  
ICT活用とレンタル提供による顧客満足の実現
11. 日本空機機器メーカーの中国戦略（1）  
ダイキン工業の中国参入戦略
12. 日本空機機器メーカーの中国戦略  
ダイキン工業の中国参入戦略
13. 日本総合商社の中国市場戦略  
伊藤忠商事の高位参加型の参入戦略～ファミリーマートをケースとして
14. 新興国とらえる製品・サービスを探る戦略とは  
現地ニーズの把握、現地ニーズを受けての製品開発、新興国販売網の重要性、標準化のバランス
15. 新興市場への基本的処方箋  
適応と統合の統合、組織の現地適応、グローバル統合の追求

#### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

#### 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【毎回の予習では、まず、事前に教員が指定する範囲を読んで、「ほんとうかな?」、「ちょっとおかしいよ」、「それはちがうじゃないかな」とマークを付けて質問を用意しておく(3時間)。毎回の復習では「何が分かった?」や「何がまだ分からなかったか」と改めて教員に質問しよう(3時間)。そこで、上述したような目標を達成するためには、予習と復習に必要な6時間を確保しよう。

#### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業の到達目標は、本学ディプロマ ポリシー「経営のグローバルな側面に関心を抱き、グローバルな課題に直面する組織で現状分析を通して、具体的な改善や解決の提案ができる」に関連する。

#### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

本授業ではオンライン・ラーニングを目指す。スライドごとに質問をさせるなど発言と質疑応答を重視しているため、振るって発言をください。

#### 実務経験の有無及び活用

#### 備考

オフィスアワー：水と木曜日12時15分から12時50分  
研究室メールアドレス：Zhiren\_Pan@red.unds.ac.jp